

かねばならない。その意味で日食協の活動が一層大切な年になる」と述べ、3本締めで閉会した。



中締めで挨拶する
成田祐一 副支部長



交礼会会場

支部活動

北海道支部ワーキンググループ交流会開催

— 2月14日 —

日本加工食品卸協会北海道支部(村山圭一支部長)は、2月14日(水)京王プラザ札幌において同支部ワーキンググループ主催による勉強会を兼ねた交流会を開催した。講演会は、(株)帝国データバンク札幌支店情報部部長の篠塚 悟氏を講師に招いて「食品業界のトレンド及び倒産状況」と題して講演。同社調査による道内の各種景気動向指数の推移や景気見通し、食料品卸・小売・製造別の景気動向指数と休廃業・解散動向のほか、実際の輸入食品販売業者、老舗菓子店や回転寿司チェーンなどの粉飾決算の事例を元に経営破綻についても解説、講演した。



講演会会場



交流会会場

近畿支部共催で新春講演会開催

－ 2月23日 －

日本加工食品卸協会近畿支部と大阪府食品卸同業会は2月23日(木)、大阪府都島区の太閤園で恒例の「新春講演会」を開催した。オタフクホールディングスの佐々木茂喜代表取締役社長が『『広島発・全国へ』～ビジョナリー・カンパニーを目指して～』をテーマに語った。開会の挨拶の中で魚住直之大阪府食品卸同業会会長(伊藤忠食品(株))は出席した約130人の会員を前に「去年、私が横浜で佐々木社長の講演を聞いて、非常に感銘を受けた。ぜひとも関西の皆さんにもお願いしたいと思って今日、お越しいただいた。佐々木社長の会社に対する思いを聞いていただきたい」と呼びかけた。佐々木氏はグループ会社の創業から、これまでのお客様とのコミュニケーションによるお好み焼きの普及活動、経営指標の変遷、社員教育の取り組み等を紹介。組織の活性化と人材育成のポイントなどについて語った。

酢の製造からスタートし、ソースを作り始めたのは戦後。当初は最後発だったためどこにも扱ってもらえず、屋台のお好み焼き店に直接売りに行っていたという。佐々木氏は「そこでユーザーとキャッチボールしながら生まれたのが『お好みソース』だった」と説明。佐々木氏は「仕組みづくりと同じくらい社風づくりが大事」と述べ、新入社員のキャベツ研修や管理職の無人島サバイバルツアーといった社内の取り組みを紹介した。また、同族会社としてファミリービジネスを構成するにはオーナーシップ、リーダーシップ、パートナーシップの3つのシップが大事と強調。最後に「お好み焼きは栄養バランスがよく、経済的で家族の団らんにも優れたメニュー。これを広めることが皆さんの役に立つことと信じて、これからも普及に努めていきたい」と締めくくった。



講演するオタフクホールディングス佐々木茂喜代表取締役社長